

2026.

9

海外トピックス

静岡県海外駐在員報告

静岡県企画部地域外交課



MRT淡水信義線 北投機廠と新型車両(台湾)

東南アジア

インド、ネパールの大学で県内企業への就職をPR

インバウンド誘客に向けて静岡をPR！（シンガポール）

中国

ペット博覧会で本県をPR！！～県内企業との新たなコラボレーション事例～

上海のおしゃれカフェで「静岡県への個人旅行」に特化した観光セミナーを開催

韓国

静岡県の高校生が韓国K-POP高校でダンスレッスンを体験

韓国の日本への好感度が過去最高に

台湾

台湾全土の首長を決める「統一地方選挙」選挙戦が本格始動

東南アジア駐在員報告

駐在員:村川 未帆

経 済

インド、ネパールの大学で県内企業への就職を PR

8月下旬、インドとネパールの大学を訪問し、今年度開催予定の外国人材と県内企業との就職面接会に向けた学生向け説明会を実施した。

説明会では、静岡県你的生活環境や産業の特徴を紹介するとともに、JETROが日本企業への就職について説明し、本県の就職面接会への参加を呼び掛けた。質疑応答では、参加企業の業種やエンジニア職で求められる専門分野、必要な日本語レベルなど多くの質問が寄せられ、日本での就職に対する学生の関心の高さがうかがえた。

また、インドのグジャラート工科大学及びネパールのカトマンズ大学では、大学関係者と意見交換を行い、本県の就職面接会への理解と協力を求めるとともに、学生への周知・参加呼び掛けを依頼した。両大学からは、単発の取組にとどまらず、県内企業が求める技能や人材像、日本語能力などのニーズを把握し、それを踏まえた学生の就職支援につなげていきたいとの意向が示され、今後の継続的な連携に積極的な姿勢がうかがえた。

一方、インド、ネパールの大学には、他自治体や日本の大手企業も積極的に訪問し、採用説明会や選考、企業独自の講座などを実施している。人材獲得競争が激しくなる中、給与水準や生活環境などの面で首都圏企業とも競う県内企業が、優秀な人材を確保することは容易ではない。就職面接会の開催だけでなく、大学との継続的な関係づくりを進め、企業が求める人材像を大学側と共有するとともに、静岡で働き、暮らす魅力を早い段階から学生に伝えていくことが重要であると感じた。

経 済

インバウンド誘客に向けて静岡を PR ! (シンガポール)

シンガポールで、旅行会社向けのインセンティブ旅行商談会と、一般向けの現地最大級の旅行博「NATAS」に参加し、BtoB・BtoCの両面から静岡県へのインバウンド誘客を図った。

商談会では、インセンティブ旅行を扱う旅行会社10社と商談を行った。求められたのは、レセプション等ができるユニークな会場、チームビルディングにつながる体験、大人数を受け入れられる宿泊施設など。当所からは、美術館や博物館を活用したレセプション、芸妓やマグロ解体ショーを取り入れた宴会、茶摘みやお茶の飲み比べ、茶と食のペアリングなど、静岡の産業や文化を生かした体験を紹介した。

NATASでは、既に日本行きの航空券を手配している来場者も多く、具体的な相談が寄せられた。昨年までは日帰りや1泊を前提とする相談が多かったが、今年は「静岡を満喫するには何日必要か」と、必要な日数を取って県内をゆっくり巡ろうとする人が増えている印象を受けた。観光スポットを点で紹介するのではなく、宿泊、食、体験、景観を組み合わせた周遊プランとして提案していく必要があると感じた。

訪日リピーターが多いシンガポールでは、「日本らしい」だけでなく、「静岡だからこそできること」が選ばれる理由になる。今後は県内事業者とも連携し、静岡ならではの体験や滞在の魅力をさらに磨いていきたい。



中国駐在員報告

駐在員:石川 祐介

経済

ペット博覧会で本県をPR!!～ 県内企業との新たなコラボレーション事例 ～

8月19～23日、県中国事務所は、中国でペットフードを製造・販売する「いなば食品株式会社（静岡市）」と連携し、同社が上海市で出展したペット博覧会「ペットフェアアジア 2026」で、本県の経済・観光プロモーションを行った。

中国のペット（犬・猫）市場は、2025年実績でおよそ3,100億元（約7.2兆円）とされ、毎年約10%の拡大が続いている。高単価のペットフードやケア用品の購入者は、現地のアップミドル層（主に20～40代の消費性向の高い世代）で、中国でも増えつつあるFIT（外国人による個人旅行者）と属性が近いのが特徴だ。

今回、同社の出展スペース（約220㎡）には「静岡県ブース」を設置。お客様が無料サンプルを求めて並ぶ時間を利用して、本県の観光パンフ配布や、SNSフォローでノベルティがもらえるPR活動を実施した。来場者からは、「なぜペットショーで静岡県がプロモーションをしているか不思議だったが、いなば食品が静岡県の企業と聞いて納得した。同社の製品が日本基準の安心な製品だと理解でき、かつ静岡県への旅行にも興味を持ったので、面白いアイデアだと思う。」との声も聞かれた。現地では、県内企業との新たなコラボレーションによって、5日間で約3,000人のフォロワーを獲得する成功事例となった。



経済

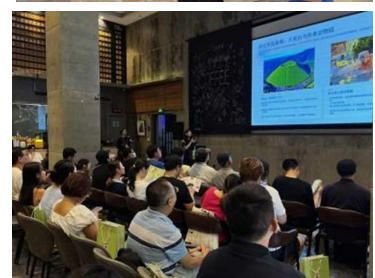
上海のお洒落カフェで「静岡県への個人旅行」に特化した観光セミナーを開催

8月23日、上海市でも感度の高い若者が集まる徐家匯（じょかゐ）のカフェで、本県への個人旅行に特化したセミナー「下一站、静岡！（次の駅は、静岡！）」を開催した。

現在、日中間の航空路線は大きく制限され、中国からの団体旅行は低調な状況が続いている。一方で、現地では旅先を深く知ろうとする「深度旅游」がブームで、中国から日本への個人旅行は底堅く推移している。このため人的往来を支える根強い日本ファンに本県の魅力を深く伝えようとの試みだ。

中国大陆からの旅行者は、国際的な運転免許制度の制約で、日本ではレンタカーを利用できない。このため、公共交通機関のお得な周遊きっぷを利用した本県周遊の提案や、実際に県内を旅したインフルエンサー2名が現地の体験談を披露した。

本セミナーには、日本への個人旅行を希望する好奇心旺盛な71名が参加した。質疑応答で、「静岡と山梨での富士山の楽しみ方の違いは？」「西伊豆へのアクセスは？」との質問が出ると、事務所の回答のみならず参加者が各自の体験談を次々と発表するなど、カフェのリラックスした雰囲気の中、会場は大いに盛り上がった。



韓国駐在員報告

駐在員:小川 雄太

社会・時事

静岡県の高校生が韓国K-POP高校でダンスレッスンを体験

本県と友好協定を結んでいる韓国・忠清南道との交流事業の一つとして、静岡県の高校生が韓国のK-POP高校に派遣された。

K-POP高校は、2020年3月に忠清南道に開校した、韓国で初のK-POPを学ぶ高校で、英語や数学といった一般的な授業科目に加えて、ボーカル、ダンス、楽器など、アーティストとなるために必要な科目を専攻することができるのが特徴だ。

今回の派遣事業では、「K-SUMMER SCHOOL CAMP」として、本県高校生達からなる訪問団が、5泊6日でK-POP高校の生徒と寮生活をしながら、学校見学、ダンス授業やK-POPを題材とした韓国語の授業のほか、交流会、産業施設の見学など多様な体験を行った。

参加者の募集については、10人の定員に対し、県内から124人もの応募があり、改めて若い世代のK-POP人気の高さをうかがうことができた。

プログラムの終盤では、両県道の高校生達によるダンスの発表会も行われた。練習時間の制約や言語の壁にもかかわらず、息の合ったレベルの高い演技を参観することができた。

本事業に参加した高校生達は、ダンス授業等を通じて現地の高校生と交流しながら、多文化理解に資する貴重な体験ができたようである。今回の経験を通じて、両県道の高校生が個人としても大きく成長し、将来の日韓交流の懸け橋となってくれることを願っている。

社会・時事

韓国の日本への好感度が過去最高に

日韓の民間シンクタンクである「東アジア研究院」と「国際文化会館」が行っている「日韓国民意識調査」の結果が8月に公表された。これによると、日本に対して好意的な印象を持つ韓国人の割合は54.3%で、昨年の52.4%を1.9ポイント上回った。これは、2013年の調査開始以来、最も高い数値である。

両機関は、日本に対する好感度が高まった背景として、日本への旅行が増え、食や大衆文化などを通じた民間交流が活発になったことが決定的な影響を及ぼしたと分析している。日本を肯定的に評価する理由としては、「親切で秩序を重視する国民性」や「魅力的な食文化とショッピング・旅行」などが挙げられている。

また、同じ調査で日本人の韓国に対する好感度も大きく上昇したことが分かった。韓国に好意的な印象を持つ日本人は35.3%で、昨年の24.8%から10.5ポイントも上昇した。K-POPなどのコンテンツや旅行、食文化などを通じた民間交流の拡大が好感度の上昇につながったとの分析だ。否定的な印象を持つ人も44.1%で、昨年の51.0%より減少した。

更に、日本政府観光局（JNTO）の「訪日外客統計」によれば、現在、国別の訪日外国人数でも韓国が1位ということである。こうした潮流をとらえて静岡県の魅力のPRに努め、引き続きインバウンドを促進していきたい。

社会・時事

台湾全土の首長を決める「統一地方選挙」 選挙戦が本格始動

<台湾の統一地方選挙とは>

8月20日、台湾の統一地方選挙が告示された。投開票日は11月28日で、台湾全22県市の首長や議員などが一斉に選ばれる。この選挙の対象となっている職位が9つもあるため、「九合一（9つを1つにまとめた）選挙」と言われている。台湾では2014年からこの方法が採用されている。

選挙で選ばれる職位は以下の9つだ。

- ① 直轄市長（六都：台北市、新北市、桃園市、台中市、台南市、高雄市）
- ② 直轄市議員（同上）
- ③ 縣（市）長（十三縣三市：宜蘭縣、新竹縣、苗栗縣、彰化縣、南投縣、雲林縣、嘉義縣、屏東縣、花蓮縣、臺東縣、澎湖縣、金門縣、連江縣、基隆市、新竹市、嘉義市）
- ④ 縣（市）議員（同上）
- ⑤ 鄉（鎮、市）長
- ⑥ 鄉（鎮、市）民代表
- ⑦ 直轄市山地原住民区長
- ⑧ 直轄市山地原住民区民代表
- ⑨ 村（里）長

通称「九合一選挙」といわれているが、それぞれの選挙における選挙権の有無は、本籍地や民族（少数民族かどうか）などによって異なっている。例えば台北市民であれば、①直轄市長 ②直轄市議員 ⑨村（里）長の3つの選挙に参加できる。

なお、村（里）長は日本の「町内会長」に相当する。初めてこの選挙制度を知ったとき、町内会長が公的な選挙で決まることに驚いた。ちなみに台湾人の友人によると、「村（里）長選挙が一番難しい。立候補者の大半が知り合いのこともあるので、誰に投票すべきかすごく悩む」とのことだった。

<公示から投開票まで2か月以上のロングラン>

台湾の選挙はスタートからゴールまでのスパンが長い。選挙がある年の春頃には各党が候補者を擁立し、公示日よりかなり前からメディアが候補者の動向をこと細かく報じている。公示から投開票日までは2か月以上もあるうえ、当選者が就任するのは12月下旬だ。台湾人の友人は「年間を通じて選挙をやっているような気がする」とも言っていた。今後11月に向けて、候補者や選挙陣営の動向を伝える番組や、世論を分析する番組などがより一層増えていくだろう。

<2年後の総統選挙の試金石>

統一地方選は4年に1回、11月の第4土曜日に行われている。これは同じく4年に1回行われる総統選挙と対をなすものであり、総統選と統一地方選は約2年おきに行われている。

現在の総統は民主進歩党（民進党）の頼清徳氏だが、実は首長と議員の大半は中国国民党（国民党）が占めているという「ねじれ構造」が起きている。直轄市6市のうち、現職の市長が民進党なのは、南部の台南市と高雄市のみ。台北市を含む北部・中部4市の市長はいずれも国民党だ。統一地方選の勝敗は、その後の総統選を左右するといわれている。今回の選挙で民進党がどこまで躍進できるかが、今後の政権運営や2年後の総統選に大きく影響してくるだろう。

静岡県 海外駐在員事務所

●東南アジア駐在員事務所(シンガポール)

住所	12 Eu Tong Sen Street, #04-168 The Central(S0H02), Singapore 059819		
電話	+65-6221-0432	FAX	+65-6221-0477
URL	http://www.shizuoka.sg/		
E-mail	fujinokuni@shizuoka.sg		

●中国駐在員事務所(上海)

住所	上海市長寧区延安西路 2201 号 国際貿易中心 2611 室		
電話	+86-21-6275-0909	FAX	+86-21-6275-8856
URL	http://www.shizuokash.com		
E-mail	ilfjs@shizuokash.com		

●韓国駐在員事務所(ソウル)

住所	3rd Floor, 50, Eulji-ro, Jung-gu, Seoul, Korea 04534(クレアソウル内)		
電話	+82-2-733-5681	FAX	+82-2-732-8873
URL	http://shizuokaseoul.com/ https://blog.naver.com/goshizuoka		
E-mail	shizuoka@clair.or.kr		

※2026 年 4 月に自治体国際化協会(クレア)ソウル事務所に移転し、引き続きこれまで同様の業務に従事しています。

●台湾駐在員事務所(台北)

住所	台北市中山区南京東路二段 137 号 連邦商業ビル 13 階		
電話	+886-2-2508-1515	FAX	+886-2-2503-5303
URL	http://www.shizuoka.org.tw/		
E-mail	shizuoka.tw@gmail.com		

<日本での連絡先>

静岡県 企画部 地域外交課

住所：静岡市葵区追手町 9-6

電話：054-221-2505 F A X：054-221-2542

E-mail：kokusai@pref.shizuoka.lg.jp